日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎１

科目基礎情報

開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	前期
対象年次	１年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	４単位	授業形態	講義		
教科書/教材	やさしく楽しく楽譜の読み方、全訳コールユーブンゲン、ギターを弾いているだけで音感がアップする方法				

担当教員情報

担当教員	早川・小澤・澤田	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン

学習目的

音楽に関わるものとして必要な基礎知識を学ぶことが必要である。この授業の演習では、楽譜の読み方や楽譜に対する知識を深め、簡単な楽譜(玉譜)を読むためのトレーニングを行う授業。音楽の基礎能力とされる音感、リズム感、和声感、読譜力の育成を目指し、総合的音楽能力を高め、いかに音楽的な表現に結びつけていくのか、より良い音楽を創り上げるための基礎を学ぶ。またこの授業の座学では、音楽理論を理解する上で、ある程度楽器が弾ける方が頭の中だけで考えるより、視覚的な事も含め早く的確である。前期はヴォーカルでありながら全員でギターを弾く事でスケール、音程、コード、コード進行、果てはモーダルインターチェンジに至るまでを耳から入ってくる感覚として感じてもらうことを目標とする。

到達目標

本科目の講義は音楽理論グレード対応科目となっているが、グレード1は後期からスタートする。前期は感覚として音楽のいろいろな要素を当たり前に感じて、ともすれば敷居の高い感のある「理論」というものを身近に感じ習得していく。演習では全訳コールユーブンゲン(大阪開成館発行)をベースとしながら譜面のとおりに歌うというカリキュラムで授業が進行する。前期では楽譜に対する抵抗感をなくし、楽譜の意味、読み方を理解し、いかに簡単に素早く楽譜を読むことができるかのポイントを理解する。それとともに簡単な音楽知識(音名、音部記号、音符の種類、拍子、リズムの種類)などについても理解し、ヴォーカリストとしての技能を体得することを到達目標にしている。

教育方法等

授業概要	理論と歌唱、2つの内容を学んでいく。理論は、ギターというキーが変わっても場所を移動して同じ形で弾けば良い楽器を使う事で、耳からはもちろん目でもスケールの並び具合、音と音の距離等を理解する事が可能である。説明だけでは少々難解な音楽理論を早く的確に習得する事を目指す。歌唱では最初にクラス分けを行い、楽譜について１から学ぶ基礎コースと、楽譜をより速く読むテクニックを学ぶ応用コースの２つのグループレッスン形式で進行していく。初心者だけでなく上級者もさらに譜読みが早くなるよう向上心を持って授業に取り組んでいくことを目指す。
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　　考
	試験	**30%**	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	**10%**	授業内容の理解度を確認するために実施する
	実技	**20%**	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表	**30%**	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	**10%**	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～１５回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	脳とフレット(1)、スキル確認	1－8(オクターブ)、１－７(セブンス)がわかる、入学時の歌のスキルを自己確認できる
２回	脳とフレット(2)、理論入門	１－６(シックス)、１－５(フィフス)、音名、音符・休符の種類がわかる
３回	脳とフレット(3)、理論入門	１－３(サード)、音部記号、拍子がわかる
４回	組み合わせ基本(1)、理論入門	１－７－８、１－５－８、１－５－７－８、１－３－５－８、リズムの種類、簡単な音程がわかる
５回	組み合わせ基本(2)、音程	１－３－５－６－８、１－３－５－６－７－８の音程、２度・３度がわかる。
６回	アンニュイな音(1)、音程	１－M7(メジャーセブン)、１－３－５－M7－８、１－４、１－4－３の音程、４度・５度がわかる
７回	アンニュイな音(2)、音程	m(マイナー３rd)、１－ｍ－５－７－８、６度・７度・８度がわかる
８回	経過音(1)、スケール練習	１－４－♭5－５－７－８、１－７－M7－８－♯9がわかる、メジャースケールが歌える
９回	経過音(2)、スケール練習	経過音がわかる、ナチュラルマイナースケールが歌える
１０回	カッティング(1)、スケール練習	６弦＆５弦・５弦＆４弦・４弦＆３弦のハモりがわかる、ハーモニックマイナースケールが歌える
１１回	カッティング(2)、スケール練習	２弦＆１弦・３弦＆２弦＆１弦のハモりがわかる、メロディックマイナースケールが歌える
１２回	カッティング(3)、音程応用	４弦＆３弦＆２弦のハモりがわかる、転回音程が歌える
１３回	コード進行(1)、課題曲	３コードと循環コードがわかる、コールユーブンゲン　p62 より数曲を歌える
１４回	コード進行(2)、課題曲	ロックンロール(シンコペーション)がわかる、コールユーブンゲン　p62 より数曲を歌える
１５回	まとめ	全体のまとめ

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎１

科目基礎情報

開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	１年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	４単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書：オーケストレーション（宅美秀俊）・音楽理論ワークブック　毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				

担当教員情報

担当教員	三宅・BAN	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン

学習目的

サウンドクリエイターとして自分の演奏する楽器以外の知識と理解が不可欠である。この授業ではオーケストラで使われている各楽器の特性・奏法を理解し、室内楽やオーケストラ編成での編曲に活かせるようにする。また楽譜の読み方を身につけて、劇伴やゲーム音楽の作曲や編曲に活かし、音楽制作や音楽上でのコミュニケーションを円滑に進める。音やリズム、楽譜に関する知識、用語、理論を身につけて知識を覚えるだけでなく、音から感じたものを書くこと、聴いて書き取ることを実施し、メロディーやリズムを採譜できるスキル、既存曲やオリジナル曲を楽譜にできるスキルを身につけることを目的とする。

到達目標

オーケストラで使われる各楽器の知識と理解を深め、記譜法（スコア・パート譜）を知り、室内楽やオーケストラ編成で編曲・作曲できることを到達目標とする。前期は各楽器を４種類（弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器）に分け、音色・特性を知る。名曲における楽器の表現、楽譜での表記を学び、編曲や作曲、楽譜作成ができる。グレード対応科目として１年次前期はグレード１～５に準処して進行する。到達目標は音符休符の種類、リズムの表記法、音名を理解し、読み、五線譜上に書けるようになる。音楽用語、標語、記号を活用できるようになる。コードについての音構成、表記を理解し、鍵盤で押さえられるようになる。コードの響きの違い（マイナーかメジャーかdimかaug）を聴いてわかる。響きの違いをコードネームで言える。

教育方法等

授業概要	集団講義形式で進行する。教科書に「３つのケーススタディでよくわかるオーケストレーション」（宅美秀俊）を用いて各楽器の特性を知るだけでなく、既成の曲を題材に室内楽やオーケストラの編成でオーケストレーションできることを目指す。またクラシック音楽作品を鑑賞し、その醍醐味・記譜法を学び、オーケストレーションに活かす。板書をノートに書くことで理解を進める。授業内容によっては課題プリントを解くことで理解する。学習内容と照らし合わせ音楽理論ワークブックを活用し、課題問題によって理解度をチェックする。
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、基礎力や知識の向上に努めること。ただし、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　考
	試験	50%	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	提出物	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～１５回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	オーケストラ・室内楽、音符の種類	オーケストラ楽器の種別がわかる。グレード１（音符の長さ）ができる。
２回	弦楽器について知る、音符の書き方	弦楽器の各楽器についてわかる。グレード１（音符を書く）ができる。
３回	弦楽器の作品を知る、拍子とリズム	室内楽・オーケストラのを区別できる。グレード１（拍子と強弱記号を書く）ができる。
４回	弦楽四重奏用の記譜、シンコペーション	弦楽四重奏用トランスクライビングができる、グレード２（シンコペーション）がわかる。
５回	木管楽器について知る、３連符を含むリズム	木管楽器の各楽器についてわかる。グレード３（３連リズム）がわかる。
６回	木管楽器の作品を知る、小テスト	木管楽器の各楽器の特性を活かした名曲を通して使い方を知る。グレード１～３の確認小テスト。
７回	木管四重奏用の記譜、速度記号表記	木管四重奏用トランスクライビングができる、グレード４（速度記号、速度表記、標語）がわかる。
８回	金管楽器について知る、記譜法（１）	金管楽器の各楽器についてわかる。音楽理論ワークブックP12～18の内容がわかる。
９回	金管楽器の作品を知る、記譜法（２）	金管楽器の各楽器の特性がわかる、グレード４（反復記号、ダイナミクス記号、略記法）がわかる。
１０回	金管五重奏用記譜、小テスト	金管五重奏用トランスクライビング、音楽理論ワークブック17pの小テストができる。
１１回	打楽器、トライアド	打楽器の各楽器についてわかる。グレード５（音楽理論ワークブック48～50p）がわかる。
１２回	室内オーケストラ(1)、トライアド	室内オーケストラの基礎がわかる。グレード５（音楽理論ワークブック51～52p）がわかる。
１３回	室内オーケストラ(2)	室内オーケストラの有名作品がわかる。グレード５（音楽理論ワークブック48～52p）がわかる。
１４回	室内オーケストラ用記譜、小テスト	室内オーケストラ編成用トランスクライビングができる、グレード５の小テストがわかる。
１５回	まとめ	全体のまとめ

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎１

科目基礎情報

開設学科	ミュージックアーティスト科	**コース名**	**プレイヤーコース**	開設期	前期
対象年次	１年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	４単位	授業形態	講義		
教科書/教材	音楽理論ワークブック、ドラムパターン大辞典326				

担当教員情報

担当教員	野村・伊藤	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン

学習目的

楽器演奏、作曲、アレンジ等、ミュージシャンとしての活動に音楽理論は必要不可欠である。音楽を深く理解し発展させるためにも基礎をしっかりと把握、熟知し柔軟に対応できるスキルを体得する。この授業では音符の基礎からはじまり、コードの仕組み、作り方、ダイアトニックコード、各種スケールなど、音楽に必要な基礎知識を把握。それを実際の作曲やアレンジ、演奏にどう生かせるかを知る事を目的とし、同時に譜面を読み書きする際のマナーも習得する。同時に、楽器を演奏しながらリズムやハーモニーに触れていく事で理論の浸透度を深くしていく。

到達目標

音符の読み書き、音符/休符の音価の把握。そして、コードの構成音、コードの作り方、ダイアトニックコード、各種スケールのインターバル等を理解し、実際の譜面書きや作曲、アレンジ、演奏に生かせる事を目標とする。特にダイアトニックコードは譜面からの音楽的な情報を得るためにも必要不可欠なので重点的に復習を行い、個々の熟知度を上げていく。また、スケールはインターバルの把握と同時に使用するポイントや場所等を理解し、適切に扱える事を目標とする。Gt・Baは指板の把握、Drはルーディメンツ、Keyはサウンドエンジニアリング技術の習得が到達目標となる。

教育方法等

授業概要	教科書に沿って講義形式で進行する。教科書の内容を実際に読み書きし、重要な箇所はノートやメモを取る事を必須とする。コードやスケールはまずは書くことから始まり、仕組みや作り方が理解できたら実際にそれらを使ってコード進行を作ってみたり、アレンジをしてみたりと発展系も取り組んでいく。ノートは必ず5線符を使用し、無い場合は5線符のプリントを配布して対応する。上級者も中級者も常に向上心を持って音楽理論を発展させることを目指す。
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　　考
	試験	**30%**	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	**10%**	授業内容の理解度を確認するために実施する
	提出物	**20%**	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	**30%**	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	**10%**	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～１５回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	音部記号と音名(1)	音部記号と音名を正しく読める。
２回	音部記号と音名(2)	音部記号と音名を正しく読め、そして譜面に書ける。
３回	音程(1)	5線上の音程を理解し、音程が読める。
４回	音程(2)	5線上の音程を理解し、音程が読める。そして、譜面に書ける。
５回	調と音階(1)	調について理解し、譜面から読み取れる。
６回	調と音階(2)	調について理解し、譜面に書ける。
７回	コードの構成(1)	コードの仕組みを理解する。
８回	コードの構成(2)	コードを組み立てることができる。
９回	コードの構成(3)	コードの構成音の把握、そして読み書きの両方ができる。
１０回	テンション(1)	テンションの組み上げ方を理解する。
１１回	テンション(2)	各コードに対してテンションがどう配置されているかを理解し、書ける。
１２回	長音階上の和音(1)	メジャーダイアトニックコードを理解する。
１３回	長音階上の和音(2)	メジャーダイアトニックコードを自分で組み立てることができる。
１４回	短音階上の和音(1)	マイナーダイアトニックコードを理解する。
１５回	短音階上の和音(2)	マイナーダイアトニックコードを自分で組み立てることができる。